

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号 52

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
----------	--

2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>① 学習実態調査と授業評価アンケートの結果から、授業を積極的に受ける生徒は多いものの、ここ数年、家庭学習時間が本校の目標とする平均時間に達していない。また、学習方法が確立できていない生徒が多いため、自ら考えて、計画し、進んで学習できる生徒を育てる必要がある。</p> <p>② 昨年度の学校評価アンケート結果から「個々の能力に応じた指導を行っている」「通信やホームページを用いて学校の情報を速やかに伝えている」が生徒・保護者共に評価が低いため改善する必要がある。</p>
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>① 家庭学習時間の増加と学習方法の確立を図る。</p> <p>② 新学習指導要領による新カリキュラム作成と観点別評価の方法を研究する。</p> <p>③ 保護者・中学生への広報活動を積極的に行う。</p> <p>④ オンライン授業や生徒用タブレットを効果的に運用する。</p>
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>① 学習指導委員会・カリキュラム委員会と学年会・教科会との連携を密にする。</p> <p>② 「中津高校だより」の配付やホームページの充実、すぐメールの有効活用を図ることで広報活動を活性化させる。</p> <p>③ 教務部を中心に ICT 機器を活用できる教師を増やし広めていく。</p>

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<p>① 家庭学習の必要性和家庭学習の仕方を教科担任とホームルーム担任から積極的に働きかけるとともに、クラス独自の学習時間調査を基に的確な働きかけを行う。</p> <p>② 新カリキュラムに関して、教科会で活発な議論をするとともに、他校や文科省からの情報を基に本校に合ったカリキュラムを。</p> <p>③ 保護者や在校生に中津高だよりで本校の活動をこまめに伝えるとともに、ホームページに掲載することで中学生や地元の方々にも知ってもらう。</p> <p>④ オンライン授業とタブレットを使用した授業の効果的な運用を研究し、積極的に実践する。</p>	<p>① 学習実態調査・授業評価アンケートの結果とクラス独自の家庭学習時間調査の結果によって評価する。</p> <p>② 教科ごとに観点別評価の基準を作成し、それを基に評価し妥当かどうかを検討する。</p> <p>③ 学校評価アンケートの結果や中学生の志願動向で評価する。</p> <p>④ オンライン授業への生徒の参加率とアンケートと感想によって評価する。</p>

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① クラスごとに学習時間を調査して頻繁に評価・改善を図った。前期の調査結果を生かして後期に生徒へ働きかけた。 ② 新カリキュラムは不確定な情報が多く完成に至らなかった。観点別評価を実際に行い、それを基に付けた成績が妥当であるかを教科会で判断した。 ③ 中津高だよりを例年よりも多く発行し、多くの行事や取り組みを紹介した。 ④ オンライン授業をできる限り多く実施するとともに、工夫した授業を実践した。	① 学習実態調査、授業評価アンケート ② 過去の成績と比較 ③ 学校評価アンケート ④ 生徒の受講率とアンケート	A (B) C D A B (C) D (A) B C D (A) B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業を積極的に受ける生徒は非常に多かった。(授業評価アンケート) ○ 中津高だよりをカラー印刷して配布し、発行数も増やしたことで多くの生徒や保護者に読んでもらい本校の様子を広く知ってもらえた。(学校評価アンケート) ○ 休校中のオンライン授業への参加率は機器の不具合で不参加の生徒を含めても95%で、ほぼすべての生徒が受講した。(休校明けのアンケート) ▲ 例年よりも家庭学習時間は増えたものの、本校の目標時間には達していないので来年度も継続して働きかけていく必要がある。(学習実態調査) ▲ 新カリキュラムを来年度の前期中に完成させる必要がある。 	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ① 家庭学習時間の増加と学年が進むにつれて自主学習が増えていくように働きかける。 ② 本校に合った新カリキュラムを作成する。 ③ 新入生のオリエンテーションにおいて、中津高校での学び方(家庭学習時間の目標・身に着きたい学習姿勢・教科ごとの勉強の仕方)と学習に向かう意欲を持たせる。 ④ 特色ある特進クラスとするために、授業の在り方や課題の設定を生徒の実態に合わせて工夫する。 ⑤ 中津高だよりだけでなく、ホームページを充実させるとともに、体験入学やオープンキャンパスをより良いものにし、中学校への広報に力を入れることで中津高校の魅力を伝えていく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月4日

【意見・要望・評価等】

- ・HPをよく見ている。教員による「卒業生からのメッセージ」の紹介をいただいているが面白い。
- ・生徒の夢を叶える学校としてコロナ禍でもできることをやってくれている。授業等に工夫して職員の働き方改革や、働く環境整備にも心がけてほしい。
- ・コロナ禍で行事が中止や延期にいらっており、広報活動は一層大切である。引き続きHPの充実を望む。
- ・コロナ禍の中で生徒の実態に合わせて活動を工夫して取り組まれていることに感謝したい。
- ・オンライン授業、ピンチをチャンスにかえた取り組みがいろいろな所で見られる。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1)「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2)「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3)「正義を希求し、真理を愛する」精神を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 生徒のアンケートでは「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」の結果で、「あてはまる・まああてはまる」が96%で昨年より5%上がる結果となった。生徒にはモラルやマナーの大切さが理解されてきている傾向である。また、保護者アンケートでは「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している」について「よくあてはまる・ややあてはまる」の合計が66%となっていて、生徒のアンケート結果の96%と比べるとの認識に開きがあった。</p> <p>② 保護者に対しての「選択授業や少人数授業又はオンライン授業を行い、生徒の理解を高めようと努めている」で88%と回答している。今年度のコロナウィルス感染症に対する学校の対応については大まかに理解されていた。</p> <p>③ 「学校は高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせる指導を行っている」については、82%程度の保護者からは評価されて昨年より倍増した。身だしなみや挨拶などの基本的な生活習慣について、保護者からは関心の大きい評価対象なので、今後生徒自らが自分自身を律する「自律」が徹底されるような支援をしていきたい。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 学習・部活動・学校行事・その他の特別活動にしっかり参加し、優先順位を付けて行動できるようにさせる。自主・自立を促す。</p> <p>② 校内での身だしなみは落ち着いてきたので、今後もこれが継続するよう、身だしなみ指導・登校指導は継続して実施する。また、校外についても気を配るよう努める。</p> <p>③ 地域との連携・関係を昨年度以上に築き上げていく。そのためにもCCC活動の活用や地域に広がる自主的な生徒会活動・委員会活動を展開する。また、特別支援学校との交流も検討したい。</p> <p>④ 本年度も生活委員会が作成した「スマホ朝電源OFFキャンペーン」を実施した。生活委員会・生徒会を中心に啓蒙活動を活発にさせたい。危険な歩きスマホを自重するように指導していきたい。</p> <p>⑤ 問題行動、いじめ、不審者等様々なトラブルに関する事象の未然防止に努める。</p> <p>⑥ 全職員が共通の課題を認識し(共通認識)、あらゆる場面で助け合いながら(協同体制)、指導・支援する。</p> <p>⑦ 問題を抱える生徒や保護者への初期対応を迅速に行う。早期の家庭訪問を躊躇しない。</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>① 学年会や各分掌との連携の強化</p> <p>② 全職員が共通認識し、協同体制で指導・支援できる体制強化</p>

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 自主性を重んじた活動や各種委員会の活性化につながる活動支援（CCC活動の推進） ② 学年と連携した身だしなみ指導 ③ 教育相談の充実	① 諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察 ② 外部アンケートによる実態把握 ③ 迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① コロナウィルス感染症対策で学校祭ができなかったが、来年度に向けての検討や今できることは何かという観点で委員会活動が活発化した。 ② MSリーダーズによる啓発活動 ③ SCによるカウンセリングと事後指導	① 参加状況、活動後の生徒の様子 ② 参加状況、活動後の生徒の様子 ③ アンケート結果、態度 ④ 未然防止、問題解決	A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果課題	○生徒会執行部が今年度の状況下でできることを自主的に模索しながら活動できた。前期生徒会は学校紹介等の動画作成や後期生徒会の次年度の学校祭の在り方についての活動などがあった。 ○ CCC活動により、地域貢献を意識したボランティア活動を実施したかったが、コロナウィルス感染症対策で何もできなかった。来年度、できる活動を積極的に生徒に提供していきたい。 ○ 生徒がより主体的に委員会活動などの特別活動に関わることができるようになりつつある。具体的には、生活委員会が授業での挨拶のさらなる向上を呼びかけた。 ○ 生活委員会が、「スマホの使用」について昨年より大きく啓発活動を実施した。各定期考査期間が始まる時期に、各教室で「STOP スマホ」の呼びかけを実施したり、全校放送を用いて「歩きスマホ」の危険性を訴えました。 ● 身だしなみは落ち着いてきてはいるが、中には気になる生徒もいる。一人一人が中津高校の生徒としての誇りを持った、立ち居振る舞いがどこまでできるかが今後の大きな課題の一つである。 ● SNSを含めた携帯（スマホ）使用に関するマナーについては事あるごとに指導していきたい。 ● 勉強と部活動の両立は言うまでもないが、3年間のうちに何か一つ自分の視野を広げるために学校外の活動に参加するような意識づけをしているが、一部の生徒への広がりを感じるが全体へ浸透は感じられない。自分の可能性を広げることは将来の可能性へとつながるので、全体へ広がる方法を模索していきたい。	
12 来年度に向けての改善方策案 ① 生徒がより積極的に様々なことを企画立案できる環境を作り、リーダーの育成という観点を重点課題として委員会活動を引き続き充実させる。 ② 生徒がより積極的に様々な企画に参加し、自己有用感を味わえるような特別活動を実施することを継続する。 ③ SNS等携帯（スマホ）の有効な使用方法を生徒たちに考えさせる。 ④ 一人一人が中津高校の代表であるという自覚をもって生活させる。 ⑤ 特別支援教育と教育相談を上手に峻別し、様々な生徒に対応するための教育相談体制をより充実させるよう検討し、教員研修を実施する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月4日

【意見・要望・評価等】

- ・R3年度に向け今からできることを工夫して頂いている。
- ・生徒会・生徒委員会がスマホの使用についての啓発活動を入れて実施されていた。時機を逸することなく取り組まれている。SNSを介してトラブルが引き起こされることがないように、より一層安全対策に努めて頂けるとよい。
- ・多くのアンケートを実施することで、アンケートずれが生じ、精度が落ちる可能性もある。難しいかもしれないが、アンケートの工夫も必要と考える。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(4) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(5) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(6) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>	
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇進路指導</p>	
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 「本校では生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」(生徒の高評価 93% (前年度より+6%)、分からない 4% (前年度より-6%) …引き続き、時機を逃さずに進路情報を提供していきたい。</p> <p>② 「本校では生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」(生徒の高評価 92% (前年度より+5%)、分からない 5% (前年度より-4%) …引き続き、生徒一人一人に対するより具体的な指導を進めていきたい。</p> <p>③ 「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」(保護者の高評価 94% (前年度より+28%)、分からない 4% (前年度より-27%) …年 7 回の「保護者のための進路サポート勉強会」をオンラインにしたこともあってか、昨年度に比べて大きく改善した。引き続き、時機を逃さずに進路情報を提供していきたい。</p> <p>④ 「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」(保護者の高評価 83% (前年度より+19%)、分からない 13% (前年度より-21%) …生徒一人一人に対する具体的な指導を引き続き進めていきたい。</p> <p>⑤ すぐメールやオンラインの活用で、保護者の「分からない」という回答の割合が減少した。昨年度の課題が少しくクリアできたと考えたい。 次年度は、オンライン化が学校全体として進むため、その的確な活用方法を確立したい。</p>	
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 個々の生徒が自己を正しく理解し、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるよう、助言や援助に努める</p> <p>② 個々の生徒の特性等を的確に把握し、望ましい職業観を育むとともに、適切な情報を提供し、計画的な進路(人生)設計の補助に努める。</p>	
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>① 学年会、教科会、教務部との連携と進路研修会の充実</p> <p>② 進路指導部を中心とした学習効果や学力の分析</p> <p>③ 前年度3年学年会からの引き継ぎの充実と資料の活用</p>	
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<p>① 進路指導及びキャリア教育において進路指導部が率先して進め、次年度に引き継がれる体制作り</p>	<p>① 各種事業実施後のアンケート集約や反省の分析、活用方法</p> <p>② 生徒の進路結果やその満足度(含む追跡調査)</p>	

② 進路プログラムの充実 ③ 効果的な補習、模試の計画と実践、評価 ④ 進学情報の分析と提供 ⑤ 進路判定会議の充実	③ 教員側からみた一人一人の生徒の進路結果の分析 ④ 学年会や他の分掌からの意見 ⑤ 進路結果と判定会議の検証・分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 1年生秋季研修、1年生合同企業説明会、弁論大会 2年生出前講座、各種進路講話、弁論大会 ② 土曜補習、夏期集中補習、共通テスト演習 ③ 大学判定会議、就職支援、羅針盤発行、インターンシップ ④ 保護者を対象とした進路サポート勉強会 ⑤ 進学指導重点校事業（外部講師による特別補習）	① 教師・生徒の反省等 ② 模試成績の判定等 ③ 進路情報の活用等 ④ 保護者との連携 ⑤ 生徒の感想等	A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
10 成果課題	<p>○コロナ禍で各種進路行事の開催も危ぶまれたが、オンラインや密にならない工夫をとることで、多くの行事を中止することなく、生徒に取り組ませることができた。</p> <p>○PTAの理解もあり、年度初めにスタディサプリ（リクルート社）を全校で導入することができ、学びの空白期間を作ることなく、自宅学習に取り組ませることができた。</p> <p>○生徒の自己実現に向けてのサポートに全校体制で取り組んでいる。放課後や休日の補習、面接や小論文の個別指導などは全ての教員が協力体制にあり、実績も上がっている。推薦入試では国公立大学、私立大学ともに合格率は前年よりも向上した。</p> <p>自己実現に向けた生徒自身の校外活動も増えており、積極的な姿勢がうかがえる。</p> <p>○1・2年生の総合的な学習の時間における取り組みが充実している。</p> <p>1年生の秋季研修では、事前学習で大学教授に来ていただいたり、事後学習でポスターセッションをおこなったりするなど丁寧な取り組みができた。また、その学習の過程で考えたことが、後半の弁論大会のテーマへとつながっている。2年生でも、出前講座を弁論ゼミが始まる前に設定し、弁論ゼミへの意識づけが明確にできた。</p> <p>○進学希望者だけでなく、就職希望者へのサポートもできた（公務員2名、一般企業3名）。</p> <p>●模試などの分析を生かしたより効果的なフィードバックの仕方を模索中である。全体的な補習ではなく、動画配信などを利用したより個に応じた学習の方法も検討している。</p> <p>●今年度から始まった共通テストだが、得点率60%以上をとれた生徒は46名だった（昨年度センター試験では得点率60%以上が33名）。授業や補習等で対策を立ててきたが、今年度の反省を生かして次年度も各教科と連携をとりながら進めていきたい。</p>	総合評価 A (B) C D
11	来年度に向けての改善方策案 ① 共通テストを見据えて、各教科における授業や課題の見直し、他教科との交流、模試のやり直し指導などを通して、生徒により力をつけさせるにはどうしたらよいか研究する。 ② 総合的な探究の時間における探究活動の充実。 ③ 全職員による情報の共有や進学支援の一層の体制作りを進める。 ④ 保護者との連携を深め、よりニーズにあった取り組みを行うことで、生徒・教員・保護者が一体と	

なった進路指導を行っていきたい。

- ⑤ より効果的な補習システムや模試の活用を研究する。…「スタディサプリ」等の活用。
- ⑥ 地元地域と連携し、地元の課題を考え、将来的に地元で貢献できる人材を育成する。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月4

日

【意見・要望・評価等】

- ・オンライン実施により保護者勉強会の参加者が1.5倍になり、ピンチをうまくチャンスに変えることができた取り組みの一つである。
- ・コロナ渦で企業合同説明会（1年生）が中止になり残念だった。今後、職業観を養う機会に積極的に参加してほしい。
- ・機会をとらえて地元中津川の企業についても知ってほしい。